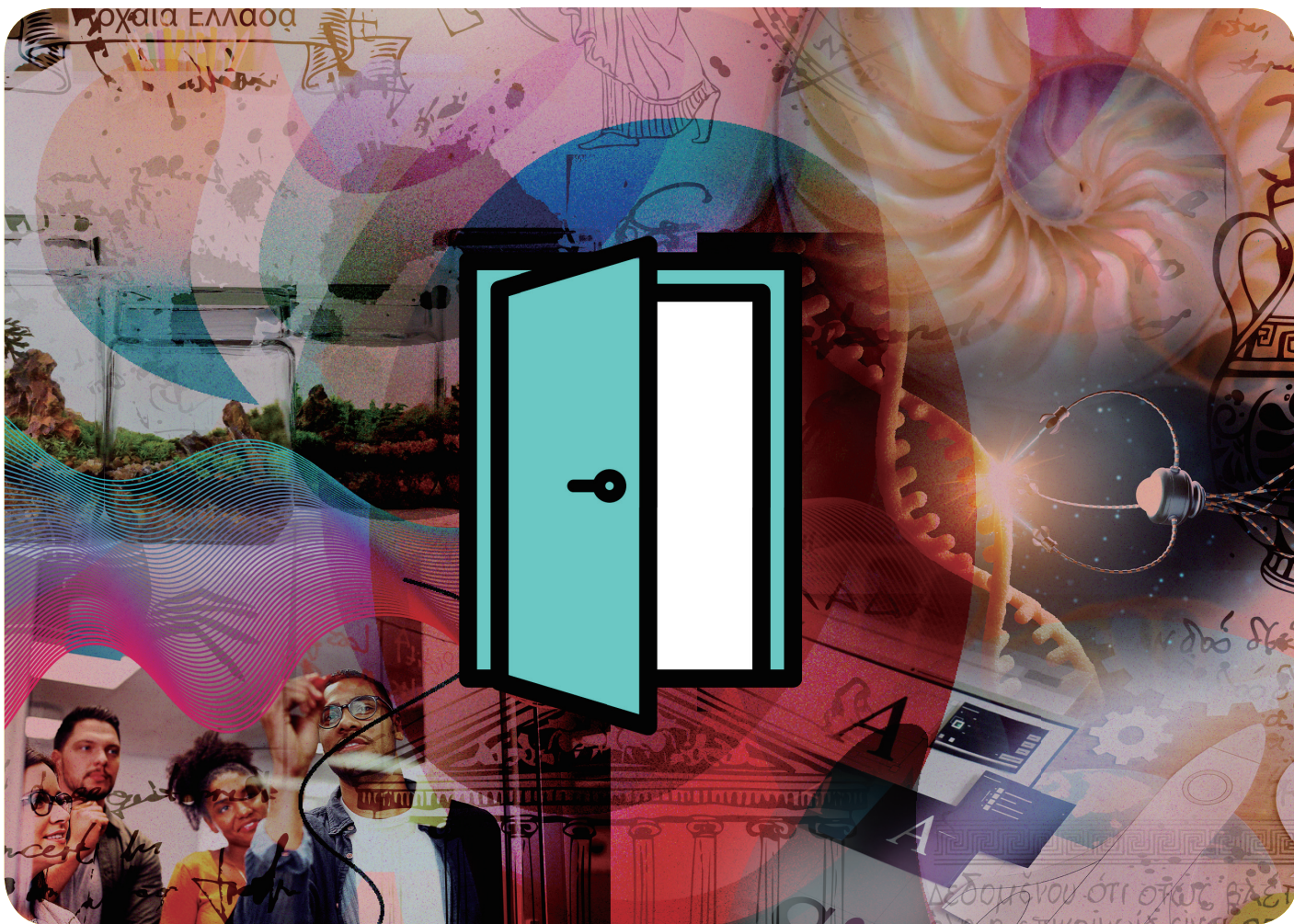


デザイン科学研究センター

Research Center for Design Science



「デザイン科学」の研究・実践を通じて 未来にあるべき社会を創造する

予測をはるかに超えるできごとや問題が起こる現代、従来のロジカルシンキングによる過去からの直線上の未来予測のみでは対応できないようになりつつあります。そうした時代に新たに求められているのが、「デザイン科学」です。まず「あるべき社会・ありたい社会の姿」を思い描くことを起点とし、そこにたどり着くためのアイデアを生み出すのがデザイン科学の思考プロセス。知のネットワークから生み出される閃きを重視することで、まったく新しい「あるべき社会・ありたい社会の姿」を創出する。こうした予測不可能な未来に理想の社会を実現する上で不可欠な「デザイン科学」を研究・実践することを目的に、デザイン科学研究センターは発足しました。

本センターの特長は、デザイン科学の社会実装に留まらず、学術的な探求にも取り組むところにあります。産学連携で社会の問題解決を実践する試みは増えていますが、そのような取り組みから得られる理論的な貢献への展開は十分ではありませんでした。本センターは、こうしたアクションリサーチをベースとした研究方法や新たな研究方法論の開発に重点を置き、デザイン科学に関する世界的な学術・研究拠点を目指しています。

未来の「社会のあるべき・ありたい姿」をデザインするには、最先端の科学技術だけでなく、社会に受け入れられる「倫理性」や「美しさ」も追求する必要があります。そのため本セン

ターでは自然科学・工学から人文・社会科学まで多様な学術分野を融合し、研究を進めています。研究メンバーだけでなく立命館大学の持つ多様な研究知見や技術を結集し、未来に求められる技術やビジネス、制度を探究していくことも計画しています。

現在注力しているのが、このような立命館大学の知のネットワークを企業活動に活用する取り組みです。学問が明らかにしてきた社会の価値観の変遷や、それぞれの時代に実装されたソリューションをベースに、「あるべき社会・ありたい社会の姿」を創出する。このような知のネットワークをベースとした新たな産学連携のあり方を、デザイン科学の視点で研究しています。またイタリアのミラノ工科大学をはじめ世界各国からデザインに関わる研究者を招聘して立命館大学で学会会議を開催するなど、グローバルに研究交流を行っています。

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、社会の価値観が大きく変わりつつある今こそ、未来に向けて「あるべき社会・ありたい社会の姿」を提示する使命を果たしていきます。



■ デザイン科学の研究拠点

ものづくり企業のソリューション提案力の向上を目指し活動しているものづくりとソリューション研究会や、将来のモビリティをベースとした社会を探索するフューチャー・モビリティ研究会、学術研究知見のアーカイブをもとに新たな製品・サービスの意味を探索する革新的意味創出研究会など、様々な研究会を実施している。

■ 協働のプラットフォーム

福井県若狭町、熊川宿の空き家問題への取り組みにおいて、若狭町や㈱DEKITAと連携し、シェアオフィスプロジェクトを実施。また、北海道長沼町では、㈱ミサワホーム総合研究所、長沼町、立命館慶祥高校と連携した地域活性化プロジェクトを実施。さらに、OICの地元である茨木市とも様々なプロジェクトを実施している。

■ 社会教育・人材養成拠点

デザイン科学研究センター DML(Design Management Lab)では、デザインマネジメントの普及を目的に、日本のビジネスパーソンを対象としたDML Seminarを開催している。また、ミラノ工科大学と連携し、欧州企業を対象とした日本研修も実施している。また、文部科学省EDGEプログラムと連携し、学生のアントレプレナー教育にも貢献している。



主な研究テーマ

- 未来のモビリティ社会のあり方
- 革新的な意味の創出方法
- ものづくり企業のソリューション提供力の向上
- 人文社会科学の産官地学連携
- ソーシャルイノベーションの実践
- デザイン科学の体系化

センター長：後藤 智（経営学部 准教授）

主な研究拠点：大阪いばらきキャンパス

お問い合わせ：立命館大学 研究部 OIC リサーチオフィス TEL: 072-665-2570 FAX: 072-665-2579 E: oicr@st.ritsumeikan.ac.jp